



「英会話の日～English Festa～」

学 校 名 富里市立富里中学校

実施日時	令和 7年 7月11日（金） 13時35分 ～ 14時20分
実施学年	第 3 学年
活 動 の 様 子	<p>1 Today's CAN-DO</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の思い出や夏休みの予定について ALT と話すことができる。 <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALT に話しかけ、会話を続けることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ① 相手に即興で質問する。 ② 既習事項を使い、修学旅行の思い出や夏休みの予定について話したり、質問に答えたりする。 <p>3 成果（○）と課題（・）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通年の授業の中で speaking だけの時間を多くとることが難しかったが、本時では課題に沿って主体的に英語を話す時間が多くあり、ALT の話す内容を理解しようとする生徒も多くみられた。 ○自らの体験（修学旅行）について、質問を考え、実際に尋ねることができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ALT への質問を考えて実際に会話として質問できたが、時間の関係で全員が質問できなかったグループもあった。 <p>4 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーミングアップで行った「evolution game」で最後に ALT と 1 対 1 で話すことができ、達成感があった。 ・修学旅行の感想を発表したことに対して、質問を聞き返されたことは少し緊張したけれど、相手にわかってもらい、自分自身も答えられて嬉しかった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>

実施日時	令和 7年 12月12日（金） 10時30分 ～ 12時10分
実施学年	第 1 学年
活動の様子	<p>1 Today's CAN-DO</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の好きなものや、その理由を尋ねたり答えたりすることができる。 <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ALT や友達とペアを組み、Which, Why, Because を含む文で自由に対話をする。 <p>3 成果（○）と課題（・）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 短い時間でローテーションを行ったことで、多くの生徒と対話する機会を確保することができた。また、他クラスの生徒と交流することができたため、新鮮な気持ちでより意欲的に取り組む姿が見られた。 ○ あらかじめ対話内容を設定していたことで、英語での発話に苦手意識のある生徒も発話しようとする姿勢が多く見られた。また、Which の後に置く名詞を変えることで、さまざまな内容について質問する様子が見られた。 ・ 対話時間を有効に活用し、最後まで話し続けさせることが十分にできなかった。今後は、相槌の打ち方や会話を広げるための表現について事前に指導しておく必要があると感じた。 <p>4 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろんな人と英語で対話できてうれしかった。 ・ 友達の好きなものやその理由を知ることができて楽しかった。 ・ 最後のほうは、原稿を見なくても対話をするのができたし、すらすら言えるようになってうれしかった。 <div data-bbox="331 1599 1394 1993"> </div>

実施日時	令和 8年 1月23日（金） 13:30～14:20
実施学年	第 2 学年
活 動 の 様 子	<p>1 Today's CAN-DO</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行ってみたい名所を、その魅力や理由とともに表現することができる。 <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3、4人のグループを組んで、ALTの前でプレゼンテーションを行う。また、ALTにその内容について質問してもらい答える。 <p>3 成果（○）と課題（・）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒同士で協力しながら原稿を作成し、中には暗記して発表する生徒の姿も見られた。 ○ グループで発表を行ったことで心理的負担が軽減され、どの生徒も前向きに取り組むことができた。 ○ 発表中に他グループの内容を聞き取る活動を取り入れたことで、より集中してリスニングに取り組む姿が見られた。 ・ 準備期間が短かったため、原稿の分量が十分とは言えず、内容もやや浅いものとなった。また、練習時間も1時間のみであったため、発音指導まで十分に行うことができなかった。今後は準備期間および練習時間の確保が課題である。 <p>4 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習ではあまり大きな声で発表することができなかったけど、本番では伝えることを意識して発表することができた。 ・相手に伝えるために、正しい発音をしたいと思った。そのために、授業中の単語の練習や音読の時間に発音を気を付けていきたい。 <div data-bbox="336 1529 880 1933"> </div> <div data-bbox="888 1529 1433 1933"> </div>